

# 火消魂の伝承



幸田町消防団 第2分団  
愛知県消防操法大会 第3位入賞



伝統を引き継ぐ  
若者たちの軌跡



連日の猛暑。しかし、この日は天候さえも選手たちに味方した。会場のアスファルトにはまだ今朝降った雨の跡がうっすらと残っている。選手たちの背中を、爽やかな風が後押しした。「わかれ！」指揮者の声が会場に響き渡る。その声に反応し、敬礼で応える選手たち。大きく息を切らしながらも背筋をピンと伸ばしその背中は重圧から解放された安堵感と厳しい訓練を耐え抜いた、達成感と充実感で満ちあふれていた。その瞬間、会場全体が大きな拍手と歓声に包まれた。



「よくやった！」今まで選手たちを指導してきた、消防署員・消防団役員 第1分団・第3分団・第4分団、消防団のOB 会場まで応援に駆け付けたたくさん仲間がテント前に戻ってきた選手たちを称えた。その声に応えるかのように やっと笑顔になった選手 ホツとした表情で座り込む選手 一緒に頑張ってきた仲間と抱き合う選手 大粒の涙を流す選手。 期待にこたえて戻ってきた選手ひとりひとりに 清水嘉隆消防団長が声を掛けた。「よく頑張ってくれた。本当にありがとう。」 固い握手と あたたかい言葉。 選手たちはまた涙した。

7月21日、半田市役所職員駐車場を会場に、第57回愛知県消防操法大会が開催されました。今大会には、幸田町代表として第2分団が出場し、第3位という素晴らしい成績を挙げました。

起源をたどれば江戸時代消防団としては、昭和22年からの歴史を持つ幸田町消防団。



昭和30年ごろの消防団の写真



しかし、時代の変化とともに入団部員の確保が難しくなりました。それでも幸田町には現在、147人の頼もしい消防団員がいます。団員それぞれが、自らの仕事を持ちながらも幸田町の安全・安心を守るため日々、訓練を重ねています。

なかなか団員がそろわず思うような訓練ができない日もありました。それでも、団員たちは1月10日からこの日の、この瞬間のために毎日、朝も夜も訓練を重ねました。過去の先輩たちが残した実績、幸田町消防団の「伝統」を守るために。

今回は、愛知県消防操法大会3位入賞を成し遂げた幸田町消防団第2分団の半年間の軌跡をたどります。



## 半年間の訓練がスタート

1月10日、時刻は、午前5時。肌を刺すような寒さ

夜のような暗さと静けさの中

幸田中学校の体育館で

県大会に向けた訓練は始まりました。

最初は、体づくりからのスタート。

腹筋や腕立て伏せ

ランニングや体幹トレーニング。

「イチーニーサン！」

体育館に大きな掛け声が響きました。

これから半年間の長い訓練に耐えるにはまず基礎体力をつけなくてはならない。

地道でハードな体力練成は

週6日、約2カ月におよびました。

## 基本動作の大切さ

3月、基本動作の訓練が始まりました。

JA幸田営農センターを借りての訓練。

たくさんの農機具が置かれたその横で

選手たちの声が響いていました。

気をつけ、右へならえ、整列休めの姿勢。

簡単な動作かもしれませんが

指先の伸ばし方、足を開く幅など

基本動作をピタリとそろえることは

操法において、重要なポイントとなります。

何十回、何百回、来る日も来る日も

同じ動作を繰り返し、体で覚えさせました。

そして、やっと、乗車の訓練。

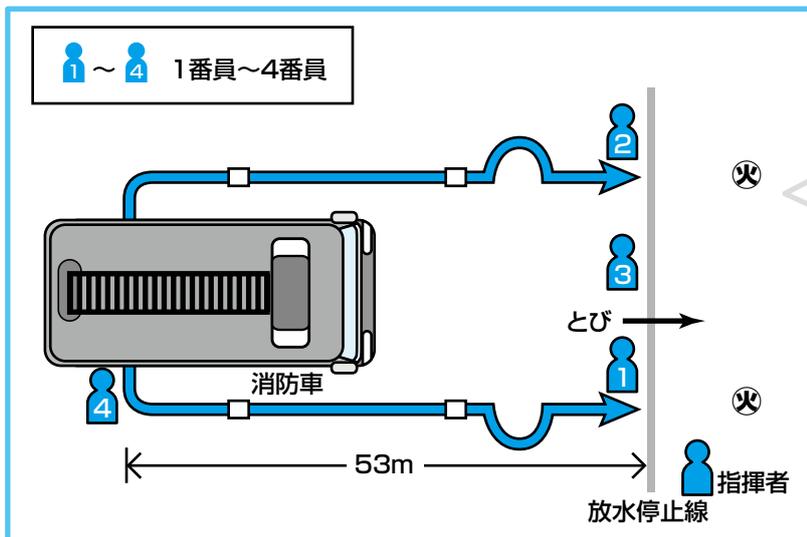
まだまだ、実際の操法とはほど遠い

気の遠くなるような訓練に

選手たちは耐え、日々基礎を磨いたのです。



## 消防の操法とは？



消防の操法とは、消火活動の基本動作を集約したもので、火点を想定した2つの目的を、放水して倒すまでのタイムを競います。

指揮者、1番員、2番員、3番員、4番員、補助員の6人で操法を行い、それぞれの番員に、ホース伸ばしや放水、機械操作などの役割が細かく定められています。

大会では的を倒すまでのタイムのほか、操作の安全性・確実性・迅速性や規律などが審査の対象となります。

## 伸び悩む中に現れた希望の光

いよいよホースを使う訓練が加わりました。選手1人に2、3人の指導者がつき、付きっきりで教え込んだこともあり4月末には、ある程度のかたちになりました。

しかし、タイムが思うように伸びません。速さと正確さが求められるこの操法。細かい部分の動きを確認するため、ずしりと重いホースを肩に担ぎコース上を1日に何往復も走りました。また、第2分団以外の3つの分団の団員も選手が使ったホースを巻き直すため選手を激励するため毎日のように練習場所を訪れました。

5月末、第55回大会で準優勝という成績を収めた旧吉良町消防団・元選手の皆さんが応援に駆け付けました。「自分たちの今できる、ありのままの操法を見てもらい、何でも教えてもらおう。」選手たちは分からないこと、気になる点を積極的に質問しました。

翌日には、全国大会の強豪にも数えられる豊明市消防団を3年以上指導していた加藤さんが応援に来られました。「簡単なことだ。ムダな動きを無くすこと。」「実際の火災で、その動きは必要と思うか?」「足がそろわない理由は、ひざの角度。」「声の出し方で、全体の印象も本人たちの動きも大きく変わる。」選手や指導者は、今まで気付かなかった多くの点に気付くことができたのです。限界を感じていた選手たちに再び、活力が戻りました。



### 幸田町消防団県大会成績

回	年月日	出場団	県大会成績
7	昭和37年 7月19日	幸田町 選抜	3位
11	昭和41年 8月19日	第3分団	準優勝
17	昭和47年 8月3日	準常備	準優勝
22	昭和52年 8月2日	第2分団	4位
27	昭和57年 8月8日	第4分団	優勝
32	昭和62年 7月29日	第1分団	4位
37	平成4年 8月4日	第2分団	
42	平成9年 7月23日	第3分団	準優勝
47	平成14年 7月13日	第4分団	3位
52	平成19年 7月16日	第1分団	5位

## クセを治すことの難しさ

6月半ば、選手たちを再び悩ませたもの。今まで多くの練習と共に気付かないうちに、各選手の体にいろいろな「クセ」が染みついていた。消したくてもなかなか消せない魔物が選手たちを追い詰めました。

それでも、大会は日に日に迫ってきます。選手たちはあせる気持ちを抑えながら解決策を皆で話し合い、週7日というさらに厳しい練習量でこの難関を乗り越えることを決断しました。

何としても、自分たちが納得できる操法を完成させたいという思い。

第2分団の選手たちの操法が日に日に完成度を増していきました。

## 全員の目標はただ一つ

7月に入ると、早朝とはいえずうだるような暑さが選手たちの体力を奪っていきました。

ひざから血を流し、足を痛め、それでも選手たちは大粒の汗を流しながら、訓練に耐えました。お互いに励まし合い、気付いた点は遠慮なく指摘する。間違いなくチームの目標は一つでした。

### 「県大会優勝」

団員全員が、同じ目標だけを見つめ全員でその目標に向かい、迷いなく、一步一步前進していきました。



## こみ上げる 感謝の思い

7月21日、大会当日。

いつもどおりの、最後の早朝訓練。場所は、JA幸田宮農センター。

最終日、この場所で確認したのは

最初に何度も練習した、基本動作でした。

県大会を経験した先輩からの言葉。

「本番は何が起こるか分からない。そこで大切なのは、最初の一つ目の動作だ。それさえ

こなせば、あとは体が自然に動いてくれる。」

その言葉どおり、最初の動作、

基本的な動きを入念に確認しました。

早朝訓練が終わり、

全分団に集合の号令が掛かりました。

第2分団分団長である蟹江章史かじえあきふみさんが

今まで訓練に携わってきた指導者の皆さん、

ホース巻きなどの仕事をずっと手伝ってくれた、

ほかの分団の団員たちの前に立ちました。

「今日までの半年間、選手たちが最後まで

あきらめずに頑張ることができたのは、ここに

いる皆さんが支え続けてくれたからこそ。

本当に、本当にありがとうございます。」

涙ながらに感謝の思いを伝えると、集合した

全員から激励の拍手が贈られました。

チームリーダーである指揮者は言いました。

「いろいろな人たちに支えられてきた。

あとはもう、自分たちの操法をやるだけ。」

大きな拍手に包まれながら

半田市へと向かう選手の姿は

半年前とは大きく違う、たくましい姿でした。





この半年間が、  
たった5分ほどの一発勝負で決まる。

「大丈夫だ。」  
「お前たちの操法を見せてやれ。」

緊張した様子の選手たちを  
会場まで応援に駆け付けた、  
たくさんの人たちの言葉が勇気付けた。

選手、指導者ともに皆で円陣を組み、  
いつも以上に鋭いまなざしで  
まっすぐに火点を見つめた選手たち。

そして、彼らは躍動した。

大勢の仲間たちの声援が  
選手たちを栄光へといざなう。





第57回 愛知県消防操法大会  
(ポンプ車の部) 結果

順位	消防団	総得点	合算 タイム
1	大府市	181.75	112.03
2	知多市	181.50	111.60
3	幸田町	181.50	114.12
4	北名古屋	180.00	114.19
5	常滑市	179.00	115.74
6	岡崎市 六ツ美	178.75	118.14
7	犬山市	178.00	116.57
8	豊明市	177.50	111.89

選手たちは大声援を背に  
練習の成果をいかなく発揮し、  
結果は、僅差で優勝こそ逃したものの  
2大会（5年に1度の出場）ぶりの第3位入賞。  
1位の大府市とは0.25点差  
2位とは同点でしたが、  
タイムが速かった知多市が2位となりました。  
それでも、操法を終えた選手たちは  
達成感に満ちあふれていました。  
一緒に頑張ってきた仲間と言葉を交わすと  
なぜか自然と笑みがこぼれました。  
伝統を引き継ぐ選手たちの笑顔は  
まるで、青春を謳歌する少年のように  
いつまでも、きらきらと輝いていました。



## 大会を終えた選手たちから感謝のメッセージ



おおた しゅうじ  
2 番員 太田 秀二 さん

優勝を逃したことは本当に悔しかったです。でも3位という結果が得られたのは、多くの皆さんの協力があったの結果。今はただただ感謝の気持ちでいっぱいです。応援してくれた皆さん、本当にありがとう！！



やまぐち しろうこ  
1 番員 山口 昇悟 さん

3位という結果にはさまざまな意見があると思いますが、僕は、指導者やサポートしてくれた皆さん、最高の仲間と共に大会に臨めたことでお腹いっぱい大満足です！応援してくれた皆さん、本当にありがとうございました。



おの まさや  
指揮者 小野 雅矢 さん

【完璧な操法をして完璧な優勝】この目標に向かい頑張ってきました。結果は3位と目標には届きませんでしたが、最高の仲間と頑張れたこの半年間は僕の宝物です。僕たちを支えてくれた関係者、家族まじ「サンキュー！！」



ないとう としなお  
補助員 内藤 俊尚 さん

県大会に向けての訓練は、つらく厳しいものでしたが、仲間と多くの人々の励ましや協力のおかげでやり遂げることができました。この半年間の経験は一生の財産です。本当にありがとうございました！



うちだ けんた  
4 番員 内田 健太 さん

幸田町消防団が一丸となり、今までやってきたことが間違いじゃなかったと思えて良かったです。操法が終わり、「良かった！良かった！」とみんなに迎えられた時、こんなに多くの人たちに支えられていたんだと感激しました。応援ありがとうございました。



もりた ひろき  
3 番員 森田 浩紀 さん

3位という結果は、練習を手伝ってくれた人や声援をくださった人たちに申し訳ない気持ちでした。しかし、素晴らしい経験ができ、最後までやりとげることができたのも仲間や家族のおかげだと思っています。ありがとうございました。

### あなたも消防団に入ってみませんか？

幸田町消防団では、消防団員を募集しています。かけがえのない私たちのまちを、あなたの力で「安心のまち」にしてみませんか？

**入団資格**◆ 幸田町に住んでいる、または勤務していること。 ◆ 満18歳以上であること。

◆ 家族や地域を大切に思い、消防団活動、地域防災に熱意をもち、健康であること。

**問合せ** 消防本部庶務課 消防団担当 ☎63-0514